

県民の命・暮らしを守る県予算編成を

日本共産党新潟県委員会が知事に新年度予算要望

日本共産党新潟県委員会と県議団は1月21日、花角英世県知事に対し、新年度県予算への要望書を提出しました。樋渡土自夫県委員長、遠藤玲子県議のほか、県内からは上越市の平良木市議（左の写真の左から2人目）など5人が参加しました。

コロナ感染症対策については、国への対策強化の働きかけとともに県独自の施策として、次のことを求めました。

①「ワクチン検査パッケージ」等のための検査所や民間薬局で実施している無料検査について、その期限を大幅に延長するとともに、検査可能な会場や民間薬局などの拡充をはかること。

新型コロナ対策では

このうち、焦眉の課題である新型

要望は、①新型コロナ感染症対策の強化、②東京電力柏崎刈羽原発に関連する事故の徹底した検証、③地域医療の抜本拡充、④加齢性難聴に対する補聴器購入助成、⑤豪雪対策の強化など160項目です。



②市町村が3回目以降のワクチン接種をすみやかに実施できるよう、支援することにも、改めて県としても独自の大規模接種会場における接種計画を具体化して推進すること。

③学校や保育施設などでの集団感染が広がっていることから、最新の世界的な知見にもとづいて、希望する12歳未満の子どもたちにもワクチン接種を行なうこと。

④感染防止対策にとりくむ事業者の経営を応援し、必死に商売を続ける県内の全事業者へ届く県独自の支援を行っていただきたい。資金繰りが著しく悪化している中小・小規模事業者による県の制度融資返済にあたっては、柔軟な条件変更も含め金融支援を継続・拡充すること。

⑤在宅の介護者が感染もしくは濃厚接触者となった場合に、代わって要介護者を着ることのできる施設や体制を確保すること。また、医療現場と同等の奮闘をしている介護職員に対しても、慰労金を支給すること。



柿崎病院は県の運営で

当口、私の代わりに参加した平良

木市議は病院問題で知事に「4つの県立病院を市町村主体の運営など」というが、市にはそのゆとりがない。医師や看護師確保は県立のネットワークでこそできる。柿崎病院はぜひ県立を維持して運営してほしい。また、上越市は佐渡よりも広く、雪道では柿崎から高田まで1時間以上かかることもある。万が一、柿崎病院の救急機能や入院機能が失われることになったら、急病人を見殺しにすることになりかねない。人口は減っても急病による救急搬送は増えている。ぜひしっかりと病院を維持してほしい」と力を込めて訴えました。

花角知事は、「病院の件もあったが、新型コロナ感染症は自宅療養者を含め、必要な医療は必ず供給できるように、最大の命題としてとりくむ」などのべたものの、柿崎病院については直接触れませんでした。

【フキ】キク科の多年草。「フキノトウ」は「フキ」の若い花芽のことをいいます。漢字で「踏の臺」と書きます。「フキノトウ」も「フキ」もよく知られた春の山菜です。1月27日、大島区のある家の暖かな玄関で花が咲いていました。通常の花期は3月～5月です。花言葉は、「公正な裁き」「真実は一つ」「待望」など。

地域協議会めぐり3時間半討議

上越市が全国最多の14市町村の合併をしてから17年。市議会総務常任委員会では、地域自治区、地域協議会、総合事務所などについて4月に改革提言をまとめるべく議論を重ねています。

1月31日の委員会では、公募公選制の地域協議会のあり方をめぐって、委員間による討議（討論）が3時間半も行われました。次回は7日の14時からです。



イラストはこの日の傍聴者を描いてみました。もちろん、委員会終了後の仕事です。

はしづめ法一の活動レポート

No.2047 2022.2.6
 発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
 Tel 025-548-3628
 通じないときは 090-5392-1961
 E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp
 URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ「ホーセの見たある記」は ← こちら

橋爪法一 検索

春よ来い

第六九四回 一月のネコヤナギ

驚きの発見は突然やってくる。そう思ったのは先日、土曜日のことでした。

吉川区の山間部を通って大島区へ向かう途中、川袋地内で車を止めました。というのは、日がパアーツと差して、稲古寄りの吉川の土手や近くにある堰などが明るく浮かび上がったからです。よし、チャンスだ、尾神岳を撮ろう、と思いました。

車から降り、除雪車で雪を川の方へ大きく押し出している場所まで行って、カメラを構えました。そのときです。川の流れのすぐそばのネコヤナギがキラッと光って見えたのは……。

ネコヤナギの細い枝に水玉がまだ残っているんだらうか。でも、いまはもう昼に近い時間……。ひよっとするとネコヤナギの白い小さな花が咲いているのかも知れない。そう思った私は、デジタルカメラを車のボックスの中から取り出し、望遠レンズで見てみました。

川の流れは早く、石などにぶつかった水はあちこちで白くなってあばれています。そうしたところでは川面に伸びたネコヤナギが花を咲かせているかどうかの確認はできません。確認できたのは、川の流れが少し黒っぽい緑色になっている部分を背景にした場所です。一部は光の関係で黄色くもって見えるところもありました。

望遠レンズを拡大してネコヤナギの枝に焦点を当て、枝の一本いっぽんを見ると、ありました、ありました。やはり、ネコヤナギの花、花穂です。色は白、長さは一センチにも満たない小さな三角形です。おそらく冬芽から花穂が出始めたばかりなのでしょう。絵筆で白い絵の具を軽くピッとほねた感じで細い枝につけてみました。

私は川辺まで下りてみたくなりました。子どもも頃やうに、そばまで行って、ネコのしっぽのような花穂の感触を味わって見たかったです。そして、写真

も近くで撮りたかったです。でも先日、九七歳の母から、「川のそばに行くなや」と言われたばかりです。川辺までの高低差は五、六段で、滑って川の中に落ちないとも限らない、そう思っただけで断念しました。

この日、大島区での用事を済ませた私は、次に何をするかを心に決めていました。川袋でネコヤナギが咲いていたのだから、柿崎区米山寺の出合橋のたもと、ネコヤナギも咲いているに違いない。この目で確かめたい、そう思っていたのです。

出合橋に着いたのは午後二時半頃でした。橋の上から、五段ほど離れた川辺のネコヤナギをながめてみましたが、花らしきものは一個だけでした。幸い積雪は三〇センチほどでしたので、川辺に下りて確認しました。やはり、咲いていたのは一個だけ、あとはすべて冬芽のままです。

そこで、今度は方針転換して地元、吉川橋の上流一五〇メートルから二百メートルほどのところにあるネコヤナギの群生地をめざしました。昨年開花を確認した場所です。川辺まで下りてみたら、川袋で見たのと同じ白い小さな咲き始めの花穂が二か所で数十個見つかりました。

ただ、こども花穂は川面まで伸びた枝の先の方です。ここでも花穂に触って、ネコのしっぽの感触を味わうことはできませんでした。その代わり写真撮影はバッチリ、デジタルカメラを使って十数枚撮りました。

昨年、ネコヤナギの開花を確認したのはマンサクの花を見つけた頃でしたから二月の下旬です。今年はそれよりもひと月も早く咲いているのです。

たまたまフェイスブックを見たら、高知県仁淀川町の安藤雅人さんがネコヤナギの花の写真をこの日、発信していました。ということは、南国の高知と同じ時期に、こ上越でもネコヤナギが咲いているのです。こつこつこつこつとあつてい

ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	1月26日(水)	2月2日(水)
上越南消防署	0.057	0.053
上越北消防署	0.053	0.047
新井消防署	0.050	0.057
頸北消防署	0.050	0.050
頸南消防署	0.060	0.063
東頸消防署	0.037	0.040
名立分遣所	0.053	0.060
高士分遣所	0.053	0.057

川合徹人さんのライブ楽しむ



昨年6月、文化会館でのNHKのど自慢でチャンピオンになった直江津の川合徹人さんのライブに参加してきました。

会場の「ライオン像のある館」では、さだまさしなどの歌が披露されました。

来月5日はNHKのど自慢のチャンピオン大会。川合さんが出るといいなと思っています。

手づくり絵はがき作成

ふるさと風景、イベントなどを描いた絵の何枚かを使って自家製の絵はがきを作成してみました。お礼状や案内文書などで使えます。

